

志峯



第4号
2023年(令和5年)7月発行
旭川志峯高等学校
旭川市永山7条16丁目
TEL 0166(48)1221
入試部

地域清掃

地域社会に貢献する心を育てることをねらいの一つとして、四月と六月の二回、三年生が校区の地域清掃活動を行いました。道行く人からも「頑張っているね。」などと声をかけられ、さわやかな気持ちで汗をかくことができました。



三年四組 高 桜 恋 奈

清掃活動を行ってみて感じたことは、思っていたよりゴミが少なかつたことです。当初は、雪解けが終わってすぐにやる予定でしたが、時間が過ぎてしまったので少なかつたのでは、と思いましたが、クラスメートの中には、住民の方から感謝されうれしかった、と言ってました。ボランティア活動は、お互いに気持ちがよくなる活動だと、改めて感じました。今回の経験を生かして居心地の良い地域になるよう、ボランティア活動などに積極的に参加してみようと思います。

三年六組 谷 翔 汰

今回の清掃活動を通して思ったことは、普段では気づかないゴミが落ちていたことに気づくことができたことです。また、ゴミを拾うことで自分も気分が良くなることができましたし、友達と協力することで、一人で見つけることができないゴミでも、誰かが見つけて地域を少しでもきれいにすることができて良かったです。

夢講演会

「夢を追求し、動き続けて」

KEBOZ・川村社長が講演

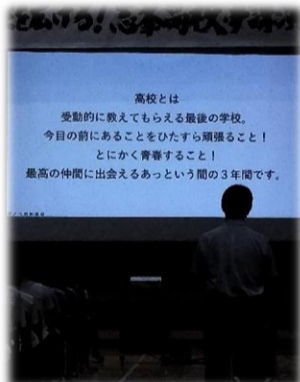
旭川志峯高校の後援会が主催する夢講演会が六月二十一日に志峯高校第一体育館で開催されました。

今回は若者に人気のストリートブランド「KEBOZ(ケボズ)」の川村健一社長が、全校生徒と保護者を前に「夢を見続けること」をテーマにおよそ一時間の講演を行いました。

川村社長は中学校まで続けた野球で甲子園の出場とさらに進路のために多くの資格取得を目指して旭大高に入学しました。甲子園出場の実を果たし、小樽商科大学に進学。

卒業後は東京のマーケティング支援企業の会社に就職。その後友人とともに株式会社JAMを立ち上げ、今年の春、夏コレクションでは、モデルに窪塚洋介さん、あばれる君を起用。現在は旭川をはじめ、東京、大阪、名古屋、福岡の五店舗を展開しています。

「山の頂から見る景色が夢なんです。夢から逆算し今やるべき目標を立てるのが一番の近道です。目の前にあることに全力を注ぎ挑戦することは楽しいです。うまくいかなかったらまた違うことに挑戦すればよい。自分のやりたいこと、目標、夢を追求して動き続けてください。」と後輩たちにエールをいただきました。



まちなかキャンパス

旭川デザインウィークの活動の一環の「まちなかキャンパス2023」が六月十七日(土)〜十八日(日)に買物公園で開催されました。

志峯高校も旭川市より依頼され、生徒会が担当していた長崎原爆資料館に届ける折り鶴作成の協力を街ゆく市民の皆さんにお願いしました。また旭大高から志峯高校に校名が変更になったことのPRも行いました。



ICT先進校を

目指しています

志峯高校は、デジタル技術を活用してカリキュラム(学校の教育目標を達成するために順序だてて編成した教育内容の計画のこと。教育課程ともいいます)や学習のあり方を常に見直しを図るとともに、教職員の業務や組織、プロセス、学校文化を常に新しいものに変えていきながら、時代に対応した教育の確立を目指しています。

志峯高校の教室には黒板がありません。各教室にはホワイトボード、プロジェクターが完備され、iPadを使いながらの授業を進めています。一人一台のiPadを活用しながらの学習は、学び方を変え、理解を深め、自分の可能性に気づくことができま

す。そのことが、VUCA(予測不可能)な時代を生き抜いていくための課題設定能力・思考力・判断力・表現力などを高めていくことにつながっています。

(注) ICTとは「インフォメーション&コミュニケーション」の略で「情報通信技術」のことで、文部科学省委託事業によるICT効果の調査研究では、ICTを用いた授業を実施した教員の90%以上が、授業の関心・意欲・態度の観点において、「効果があった」と回答しています。

